

国立民族学博物館研究報告 vol.3-4; 表紙, 目次ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	3
号	4
発行年	1979-03-30
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009259

1978・12 3_卷4_号

国立民族学博物館 研究報告

●
過山ヤオ族の二つの起源神話〈槃瓠〉と〈渡海〉

——種族的アイデンティティの生成と淘汰—— 竹村卓二

台湾南部山地およびバタン諸島のアワの特性とその民族植物学的考察—— 阪本寧男

アンデス高地の環境利用——垂直統御をめぐる問題—— 大貫良夫

オロッコ族の病気に對する呪符—— 和田 完

結界について(II)——境界的結界—— 垂水 稔

●
A Preliminary Bibliography for the Study of

Customary Laws of Southeast Asia and Taiwan—— ISHII, Yoneo (ed.)



国立民族学博物館

〒565 大阪府 吹田市 千里 万国博記念公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

3 卷 4 号

1978年12月

目 次

過山ヤオ族の二つの起源神話<槃瓠>と<渡海> ——種族的アイデンティティの生成と淘汰—— ……………竹 村 卓 二…… 615	615
台湾南部山地およびバタン諸島のアワの特性とその民族植物学的考察 ……………阪 本 寧 男…… 682	682
アンデス高地の環境利用 ——垂直統御をめぐる問題—— ……………大 貫 良 夫…… 709	709
オロッコ族の病気に対する呪符……………和 田 完…… 734	734
結界について (II) ——境界的結界——……………垂 水 稔…… 749	749
A Preliminary Bibliography for the Study of Customary Laws of Southeast Asia and Taiwan……………ISHII, Yoneo (ed.)…… 780	780
彙 報…………… 834	834
国立民族学博物館研究報告3巻総目次…………… 838	838
国立民族学博物館研究報告寄稿要項…………… 840	840
国立民族学博物館研究報告執筆要領…………… 841	841

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 3 No. 4

December 1978

TAKEMURA, Takuji	“Dog Ancestor” and “the Crossing of the Sea”: a Selection of the Mythical Cores of Yao Ethnic Identity 615
SAKAMOTO, Sadao	Characteristics and Ethnobotanical Comparison of Fox-tail Millet (<i>Setaria italica</i> P. Beauv.) Samples from Southern Formosa and the Batan Islands..... 682
ONUKE, Yoshio	Vertical Control: Some Problems on the Exploitation of the Environment in the Central Andean Highlands 709
WADA, Kan	Medical Amulets among the Oroks 734
TARUMI, Minoru	Boundaries and Boundary Markers: Part II..... 749
ISHII, Yoneo (ed.)	A Preliminary Bibliography for the Study of Customary Laws of Southeast Asia and Taiwan 780

彙報

(昭和53年7月～
昭和53年9月)

第二回国際シンポジウム

The 2nd International Symposium, Division
of Ethnology, The Taniguchi Foundation

テーマ：「アラスカ原住民の文化史——エス
キモーとインディアン——」

(Culture History of the Alaska
Natives—Eskimos and Indians—)

日時：昭和53年8月21日(月)—28日(月)

場所：国立民族学博物館，東洋紡績総合研究
所求是荘

摘要：アラスカをフィールドとするアメリカ
およびカナダの若干の人類学者7名を招聘
して第二回国際シンポジウムが，本館なら
びに財団法人民族学振興会(千里事務局)
の共同主催，財団法人谷口工業奨励会45周
年記念財団の後援によって，開催された。
シンポジウムの前半は本館で，後半は天津
市堅田の東洋紡績総合研究所求是荘に会場
を移して行なわれた。期間内に6セッション
が持たれ，大小15のペーパー発表があり，
それぞれ質疑応答が行なわれた。また，総
合討論では，各ペーパー発表者により提起
された諸問題の討論が展開された。

シンポジウムの結果は，国立民族学博
物館の欧文研究報告 (Senri Ethnological
Studies) の一部として発表される予定であ
る。

組織委員会

委員長

梅棹 忠夫 国立民族学博物館長

委員

祖父江孝男 国立民族学博物館第1研究
部長・教授

佐々木高明 国立民族学博物館第2研究
部長・教授

伊藤 幹治 国立民族学博物館第3研究
部長・教授

蒲生 正男 明治大学政経学部教授

宮本 繁雄 国立民族学博物館管理部長
実行委員会

委員長

小谷 凱宣 国立民族学博物館第1研究
部助教授

委員

秋道 智弥 国立民族学博物館第2研究
部助手

秋道 三夫 財団法人民族学振興会千里
事務局事業課員

小山 修三 国立民族学博物館第4研究
部助教授

松山 利夫 国立民族学博物館第1研究
部助手

森川 国雄 国立民族学博物館管理部庶
務課共同利用係長

中牧 弘允 国立民族学博物館第1研究
部助手

小川 了 国立民族学博物館第3研究
部助手

岡田 宏明 北海道大学助教授文学部北
方文化研究施設

宇治日出二郎 財団法人民族学振興会千
里事務局事業課長

湯浅 叡子 財団法人民族学振興会千里
事務局長

参加者

・報告者

ANDERSON, Associate Professor, Dept.
Douglas D. of Anthropology, Brown
Univ.

BURCH, Mechanisburg, Pennsyl-
Ernest S., Jr. vania.

DUMOND, Professor and Chairman,
Don E. Dept. of Anthropology,
Univ. of Oregon.

蒲生 正男 明治大学政経学部教授

小谷 凱宣 国立民族学博物館助教授

宮岡 伯人 小樽医科大学助教授

NELSON, Research Associate, Dept.
Richard K. of Anthropology, Univ. of
Alaska.

岡田 宏明 北海道大学助教授
TOWNSEND, Associate Professor, Dept.
Joan B. of Anthropology, Univ. of
Manitoba
WORKMAN, Associate Professor, Dept.
William B. of Anthropology, Univ. of
Alaska
WORLD, Rosita Anchorage, Alaska.

・討論者

加藤 晋平 筑波大学歴史・人類学系助
教授
小山 修三 国立民族学博物館助教授
岡 千曲 相模女子大学助教授
岡田 淳子 東海大学講師
祖父江孝男 国立民族学博物館教授
梅棹 忠夫 国立民族学博物館長

日 程

8月21日(月)

午後 国立民族学博物館見学, 館長室訪問
夕方 館長主催歓迎レセプション

8月22日(火)

9:00—9:35

開会の辞 梅棹 忠夫
キイノート・スピーチ 蒲生 正男
“Alaskan Studies by Japanese Anthro-
pologists”

第1セッション——伝統文化の成立: 考古
学的背景

9:45—12:15 (午前の部) (座長 Dumond)
Anderson: Continuity and Change in
the Prehistoric Record of North
Alaska.

Workman: Continuity and Change in
the Prehistoric Record from Southern
Alaska.

14:00—16:30 (午後の部)

(座長 Anderson)

岡田・小谷: Prehistory and Poleoecology
of the Alaska Peninsula as Seen from
the Hot Springs Site, Port Moller.

Dumond: A Natural History of Subsistence
Systems in Prehistoric Alaska.

8月23日(水)

第2セッション——伝統文化の特質: 民族
誌的・社会人類学的背景

9:30—12:00 (午前の部) (座長 Townsend)
Burch: Traditional Eskimo Societies in
Northwest Alaska.

蒲生: The Band Structure and Accultu-
ration among the Eskimos of Nelson
Island, Southwestern Alaska.

14:00—16:30 (午後の部) (座長 Burch)
Townsend: Societal Change and Ethnic
Development in Eighteenth and
Nineteenth Century Southern Alaska.
Nelson: Athapaskan Subsistence Ada-
ptations in Alaska.

8月24日(木)

9:30—12:00

総合討論(A): 伝統文化の諸問題について
(座長 岡田宏明)

夕方 谷口豊三郎氏主催晩さん会(京都)

8月26日(土)

第3セッション——伝統文化の変化: 変化
の現状

9:20—12:00 (午前の部) (座長 Nelson)
Worl: The North Slope Inupiat Con-
temporary Whaling Complex.

Miyaoka: Alaskan Native Languages
in Transition.

14:00—16:30 (午後の部)

(座長 Workman)

Burch: Cultural Revitalization among
North Alaskan Eskimos.

Nelson: Culture Changes among Atha-
paskans in Interior Alaska.

Dumond: Community Patterns on the
South Coast of Bristol Bay.

Miyaoka: Bilingual Education Prog-
ram among Central Yupik speakers.

Worl: Alaska Native Claims Settlement
Act.

8月27日(日)
 9:30—12:00
 総合討論(B): アラスカ原住民の文化変化
 の諸問題について (座長 Worl)
 14:00—15:30
 総合討論(C): アラスカ原住民の文化変化
 の諸問題について(継続) (座長 Worl)
 15:45—16:40
 話題提供: 祖父江孝男——現代日本社会の
 文化変容
 16:40—17:00

閉会の辞 蒲生 正男
 夕方 サヨナラ・パーティー
 8月28日(月)
 9:00—11:00
 連絡会議: 今後の研究協力と出版計画につ
 いて(座長 小谷凱宣)

館内合同研究会

昭和53年

9月13日 「ヨーロッパ民族学こぼればな
 し」 J・クライナー

海外における研究・調査・収集活動

氏名	出発	帰国	行先
杉本 尚次(第4研究部教授)	53. 7. 2	53. 8. 31	スウェーデン, フィンランド, ノルウェー, ドイツ連邦共和国, 連合王国
加藤 九祚(第1研究部教授)	53. 7. 7	53. 8. 16	ソビエト連邦共和国, モンゴル 人民共和国
宮本 勝(第5研究部助手)	53. 7. 11	53. 7. 31	フィリピン共和国
関本 照夫(第2研究部助手)	53. 7. 15	54. 5. 14	インドネシア共和国
梅棹 忠夫(館長)	53. 7. 23	53. 8. 11	ユーゴスラビア, ブルガリア, ハンガリー, チェコスロバキア, ドイツ連邦共和国
吉本 忍(第2研究部助手)	53. 7. 25	53. 8. 22	パプア・ニューギニア
佐々木高明(第2研究部教授)	53. 8. 1	53. 9. 2	タイ
田邊 繁治(第2研究部助教授)	53. 8. 1	53. 9. 2	タイ
野村 雅一(第5研究部助教授)	53. 8. 4	54. 1. 9	ユーゴスラビア, ルーマニア
友枝 啓泰(第2研究部助教授)	53. 8. 20	54. 8. 19	ペルー, エクアドル, ボリビア, アメリカ合衆国, ブラジル, ベ ネズエラ, コロンビア
宮本 勝(第5研究部助手)	53. 8. 21	53. 12. 1	フィリピン
藤井 龍彦(第4研究部助教授)	53. 8. 30	54. 1. 28	ペルー, チリ, ボリビア
松原 正毅(第2研究部助教授)	53. 8. 31	54. 2. 28	トルコ, アフガニスタン
栗田 靖之(第2研究部助教授)	53. 9. 1	53. 10. 31	アメリカ合衆国, メキシコ
端 信行(第3研究部助教授)	53. 9. 1	54. 3. 4	フランス, カメルーン, 中央ア フリカ共和国
江口 一久(第3研究部助教授)	53. 9. 1	54. 3. 22	フランス, 象牙海岸, トーゴ, カメルーン
和田 正平(第3研究部助教授)	53. 9. 1	54. 3. 22	フランス, 象牙海岸, トーゴ, カメルーン

彙 報

田邊 繁治 (第2研究部助教授)	53. 9.11	54. 9.10	連合王国
秋道 智彌 (第2研究部助手)	53. 9.13	53. 9.25	インドネシア共和国
松山 利夫 (第1研究部助手)	53. 9.15	53.10. 1	アメリカ合衆国
杉本 尚次 (第4研究部教授)	53. 9.16	53. 9.25	西サモア
櫻井 哲男 (第5研究部助手)	53. 9.21	53.10.10	大韓民国
山本 紀夫 (第3研究部助手)	53. 9.25	54. 3.30	ペルー, ポリビア

来館者抄

昭和53年

7月6日	上田 篤 (大阪大学教授)		J. ダナンジャヤ (インドネシア大学文学部講師)
11日	東村 武信 (京都大学教授)		T. D. ジョシ (ネパール王国学士院会員)
13日	石井 庄司 (東海大学教授)		S. ワンリポードム (シルパコン大学教授)
17日	若泉 敬 (京都産業大学教授)		服部 勉 (東北大学助教授)
	三木 新 (同)	19日	中川 文雄 (筑波大学助教授)
21日	野田 一夫 (立教大学教授)	23日	周 培 源 (中国科学院副院長 北京大学校長)
27日	梅溪 昇 (大阪大学教授)		崔 泰 山 (同 外事局責任者)
8月17日	谷村 晃 (大阪大学教授)		王 大 珩 (同 長春光機所長)
	山口 修 (同 助教授)		郝 柏 林 (同 物理研究所研究員)
8月19日	Hesung C. Koh (HRAF. アジア研究部長)		顧 以 健 (同 大連化物所副研究員)
	Kwang Koh (Professor, Central Connecticut State College)	26日	Donald H. Shively (Professor of Japanese History, Harvard University)
	F. D. JAMES (Director, Central Connecticut State College)		Friedrich A. von Hayek (Universität Freiburg)
8月21日~29日	谷口財団 国際シンポジウム参加者	28日	中村 光男 (オーストラリア国立大学客員研究員)
8月28日	周 達 生 (神戸中華同文校)	30日	米花 稔 (神戸大学名誉教授)
12日	Carlos R. Margain (メキシコ国立自治大学大学院教授)		
18日	李 杜 鉉 (ソウル大学教育学部教授)		
	A. バッタチャリア (カルカッタ大学教授)		

国立民族学博物館研究報告 3巻 総目次

3巻1号

友枝 啓泰：セニャル儀礼の増殖表象——中央アンデスの家畜増殖儀礼——	1
櫻井 哲男：新・楽器分類法	40
垂水 稔：結界について(I)——日本の境界標示装置——	63
杉本 尚次：ハモンド島(トレス海峡)の村落と住居	95

3巻2号

佐々木高明：新粟のチマキと豊猟の占い——ルカイ族・パイワン族のアワ祭り抄——	119
石毛 直道：ハルマヘラ島, Galela 族の食生活	159
山本 順人：ハルマヘラ島, Galela 族の食生活調査データの コンピュータ処理について——食生活分析システム“MEAL”——	271
祖父江孝男：物質文化研究の方法をめぐる	280
大給 近達	
中村俊亀智	
大塚 和義	

3巻3号

関本 照夫：農業をめぐる人のカテゴリーと相互関係——中部ジャワの一事例——	345
吉田 集而：トバ・パタック族における病気の民俗分類	416
松澤 員子：Limau 村の家族, 親族, 村落の構造——ハルマヘラ調査ノート——	465
大胡 修：Limau 村の漁撈活動——ハルマヘラ調査ノート——	486
端 信行：サンゴ礁海域における磯漁の実態調査中間報告(1) ——石垣市登野城地区漁民社会の若干の分析——	520
須藤 健一：サンゴ礁海域における磯漁の実態調査中間報告(2) ——石垣市登野城地区漁民社会の潜水漁法——	535
黒田 悦子：ミへの歴史と内なる“歴史”——Apuntes sobre la Historia de los Mixes de la Zona Alta, Oaxaca, México 後記——	557
RIDDLE, Kenneth: The Geographical Distribution of Sago-Producing Palms	572
EGUCHI, Paul Kazuhisa: A Brief Account of the Life of Zigla according to Musgum Tradition	595

3巻4号

竹村 卓二：過山ヤオ族の二つの起源神話<槃瓠>と<渡海> ——種族的アイデンティティの生成と淘汰——	615
阪本 寧男：台湾南部山地およびバタン諸島のアワの特性とその民族植物学的考察	682

大貫 良夫：アンデス高地の環境利用——垂直統御をめぐる問題——	709
和田 完：オロッコ族の病気に対する呪符	734
垂水 稔：結界について（Ⅱ）——境界的結界——	749
ISHII, Yoneo (ed.): A Preliminary Bibliography	
for the Study of Customary Laws of Southeast Asia and Taiwan	780

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のすみ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当たっては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万国博記念公園
国立民族学博物館内
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限る。図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]

[Leach 1961: 123]

[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]

9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
 - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
 - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本語の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13(4): 311-330.

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143.

Leach, Edmund

- 1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.
In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language,
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術——』 堀 一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 3卷4号

審査委員

梅 棹 忠 夫
中 根 千 枝

祖 父 江 孝 男

編集委員

伊 藤 幹 治
黒 田 悦 子
田 邊 繁 治

加 藤 九 祚 (編集委員長)
竹 村 卓 二
垂 水 稔

昭和54年3月23日印刷
昭和54年3月30日発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 3卷4号

編集・発行 国立民族学博物館

〒565 吹田市山田小川41-1
TEL 06 (876) 2151 (代表)

印刷 中西印刷株式会社

〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075 (441) 3155 (代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol. 3 no. 4
December 1978

- | | |
|--------------------|--|
| TAKEMURA, Takuji | "Dog Ancestor" and "the Crossing of the Sea": a Selection of the Mythical Cores of Yao Ethnic Identity |
| SAKAMOTO, Sadao | Characteristics and Ethnobotanical Comparison of Fox-tail Millet (<i>Setaria italica</i> P. Beauv.) Samples from Southern Formosa and the Batan Islands |
| ONUKE, Yoshio | Vertical Control: Some Problems on the Exploitation of the Environment in the Central Andean Highlands |
| WADA, Kan | Medical Amulets among the Oroks |
| TARUMI, Minoru | Boundaries and Boundary Markers: Part II |
| ISHII, Yoneo (ed.) | A Preliminary Bibliography for the Study of Customary Laws of Southeast Asia and Taiwan |



National Museum
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X